

「教会設立 30 周年」に向けて

立石 章三

横浜中央教会の教会設立式は 1988 年 7 月 10 目でした。しかしそれまでに東京教会の横浜集会所時代と、横浜西口教会という伝道所時代の合計が 10 年近くありましたので、2018 年は教会設立 30 周年であると共に、伝道開始 40 周年でもあります。この記念すべき年の記念事業のあり方を今から考えておきましょう。これは小会、執事会、企画委員会が直接的には考える主体ですが、会員の皆様にも積極的に考えていただきたいと思います。いくつか教え上げてみます。

①長老と執事の増員：多くの教会には長老の定年制度（70 才）がありますが、私たちはこれを採用していませんので、C. K長老の任期は 2017 年（78 才）まであります。M. M長老は今年 7 月で 70 才になりますが、今年の選挙では 2018 年までの任期が承認されています。まだまだお働きいただけるでしょう。

2017 年に新しい長老が出ますと、小会は 5 人長老制で 1 年間運営され、C 長老引退後の安定した小会運営ができます。しかし私の定年と共に小会の世代交代というなら、さらにもう一人の長老を育てねばなりません。

②隣接地購入は 2012 年 9 月でした。今年 9 月に新会堂が完成する予定ですから、結局 25 周年から 30 周年までの大仕事は新会堂を建てるための献金と建築だったと言えるでしょう。この会堂を用いて何かをするのが 30 周年記念事業です。

2018 年には記念講演会、コンサートなどを企画したいのですが、とりあえず今年のクリスマスまでには、特別伝道集会、コンサートなどができたらと願っています。今年 10 月 30 日の東部中会連合執事会の会場、来年 3 月の神奈川伝道協議会の会場は当教会となる予定です。このように会堂増築によって中会的な奉仕が期待されています。私たちの記念事業は教会の中だけでなく、神奈川の諸教会にも呼びかけて行ないたいものです。神奈川地区の有志教師による「夜間聖書教室」などを開けないか、神奈川教師会で打診するつもりです。

③30 周年を期して 300 万円程度の記念感謝献金を募ることができるなら、教会会計の健全化を図ることができ、牧師の引退（2019 年）までに、教会の借金は 700 万円程度に縮小できるでしょう（年報 26 頁）。

④記念誌の出版。前回の記念誌は 20 周年（2008 年）でした。25 周年前は結局発行出来なかったのですから、30 周年には必ず発行しなければなりません。記念誌の内容を 20 周年誌と同じような体裁にするなら、今から写真、原稿、記録、年表を準備しなければなりません。企画委員会だけではきつい仕事ですから、別に委員会を立て、編集部員を募る必要があるでしょう。

聖書の貫録

K. K

この春で私は洗礼を受けてから 13 回目のイースターを迎えます。当時は自分の新しい聖書に比べ、貫録の出た聖書を持っている周りの方たちを羨やましく思っていました。それはお金では買えない時間の作り出すものであり、如何に聖書に触れているかを示すバロメーターのように思えました。私の聖書もそれなりに貫録も出てきましたが、私のは単に手垢がついて古びているだけかも知れません。

私の聖書にはあちこちと付箋が貼ってあります。その中の一つを紹介します。聖書は堅苦しそうでそのうえ小さな文字だらけで読む気にもならない、という人が多いと思います。日頃から其のことを残念に思っていた私の目に留まった箇所です。列王妃上の 3 : 16 ~ 28 です。なんと！この内容とほぼ同じ粗筋のテレビドラマを見たことがあるのです。「大岡越前」という時代劇で、江戸時代の町奉行所の話です。

ひとりの子供をふたりの女がどちらも私が本当の母親だと言い張り、決着がつかず裁きを受ける話です。テレビでは子供の両手を引っ張り合い、子供の手をかわいそうに思うあまり離れた女が本当の母親だとなります。列王記ではソロモンが主から与えられた知恵をもって裁きます。聖書とテレビドラマを同列に論じるつもりはないのですが…。

私はこの聖書箇所なら聖書など絶対に読もうとしない、時代劇好きの年配者にも受け入れられるのでは、と考えました。結果は話し方が悪かったのか、他の方法があったのか、上手くいきませんでした。

どのようにしたら、多くの人に聖書を読んでもらえるのでしょうか。聖書を読んだ事のある人なら、聖書が永遠のベストセラーと言われるのを認めるでしょう。

少し、古びてきた私の聖書は心沈む日も楽しい日も共に過ごしてきた、私なりの歴史があり何ものにも代えられません。神様が私達に求めている事を考えながら読んでいきたいと思います。

聖書は私の静かにたたずむ信頼する友人です。